

民報あばしり

NO.871
2012.6.17
発行所
日本共産党
網走市委員会
網走市北八西三
四三三・四四五八
F 四三三・四四五七



437項目の予算要請

対道交渉終わる

日本共産党北海道委員会と同道議団は6日、当面する道政と2013年度予算編成についての要請を行いました。

はたやま和也道副委員長（衆院北海道比例候補）と6人の小選挙区候補、真下紀子道議ら2日でのべ90人の地方議員が参加しました。6人参加した北見地区議員団の一員として、松浦敏司・飯田敏勝両議員は地元の要求を携え参加しました。

市議団個別交渉を行う

網走市議団は、市関係の12要望項目について回答をもらいましたが、数項目について別室にて個別交渉を行い、前進的な回答を引き出した要望事項もありました。

桂ヶ岡公園市道の地滑り対策については、「定点観測で変動なく、集水井の暗渠排水管の機能も維持されているので問題ない」との回答だったが、「地滑りに現在結び付いていないが、市道の段差は年々拡大している。ロードヒーティングの影響も指摘されているが、それらも含めて何が原因なのか究明すべきでは」と問うと、担当主幹は「今年度、委託事業で新たな調査を行う予定。指摘のあった市道近くの集水井の暗渠管内部の状況が機能しているのか、機器により確認したい。いずれにしても段差の拡大には注視しており、近くに病院、学校もあるので安全性からも市道管理者の市とも連携して調査していきたい」と回答しました。

冬の流水接岸時の地震・津波ハザードマップの作成については「道開発局関係の独立法人寒地土木研究所においてH23～27年までの5ヶ年で行っているが、国際的に例がなく、対策に苦慮している。良い研究として始まったばかりなので、どれだけ進むかが作成時期を特定できないが、影響の解明に期待している」と回答しました。その他の項目については、次号以降で随時掲載致します。



松浦奮戦も！

野田首相の大飯原発再稼働の判断について、厳しい声が上がっています。野田首相は「福島のような地震・津波が起これば、現段階で最大限の知見や対策を取り入れた」と述べました。

しかし、国会事故調査委員長が「理解できない」と再稼働を批判しています。30項目の安全対策（免震事務棟やフィリター付ベントなど）さえ満たしていないのに、なぜ事故を防止できると言い切れるのでしょうか。大飯原発をどんな地震・津波が襲う危険があるのかわからないのに、知見をとり入れたといえるわけがありません。福島原発事故の原因究明もできていない、安全対策も途上なのに「大丈夫」といっている。それこそ最悪の「安全神話」をふりまくものです。政府は、この1年、代替発電の確保や電力融通、節電などに本腰を入れず、原発再稼働にしがみついていたと言わざるを得ません。

いよいよ東奔西走

第2回定例議会が6月議会で始まり、3月の予算執行が始まった24年度の予算執行が始まりました。東日本大震災に際して地方自治体（被災地に限らない）の防災施策に必要な財源確保が名目となり、個人市民税の均等割を3000円から3500円に500円引き上げるものです。

一方では、大企業向けの法人税はというと、増税と思いきや「まず5%を減税したうえで、減税の範囲内で付加税を3年に限って課す」というもの。何のことはない、庶民には復興を口実に長期間の負担を押し付ける一方、大企業には痛みを与えないどころか、3年間の期間を経た後に大減税を実施する。さらに、個人市民税の退職所得に係る10%税額控除の特例措置も廃止です。さらに今回の消費税増税です。これらをして顔で推し進める首相に庶民は「NOーだ！」

流水

先月、T団体の総会に初めて参加した▼今から15年前のその頃担当した障がいを持った子ども達。背丈も横幅も大きくなり、胸に響く明朗な声！堂々として、胸に響く明朗な声！堂々として、

態度で活動報告をした▼伸びる可能性を信じて共にここまで支えてきたであろう親達のなんと涼やかな笑顔か。障がいを持つ人も持たない人も、共に自分らしく生きることを見ながら歩んできた結果と感じた▼4年前に自立支援法が施行されたが、障がい者の人間としての尊厳を深く傷つけた。として、自立支援法廃止と新法制定を約束して政権を得た民主党は、今年の4月衆院厚生労働委員会で見送りを決めた。そのため、社会参加に必要な支援の保障、応益負担ではなく支援の原則無料などの願いは無視された。気になる環境が、「安心して生きて行けない世の中」になっていないか？弱者への配慮が優しいといえないではないか？▼つい先ほど、テレビの放映は、脱原発の運動が広がっているのに、電力削減でなく再稼働の方向と野田首相が発言していた。残念である。この上、消費税を誰のために上げるのか。この状況、自分らしくしていただいで黙ってはいられない。(て)